



## ご支援の方法

正会員・賛助会員になって、子どもたちと一緒に支えて下さい。

ご寄付をお願いします。金額は問いません。

お寄せいただいたご寄付は、子どもたちのために活かされます。

ボランティアとして参加をお願いします。  
シェルターにはたくさんの人の力が必要です。

「子どもセンターるーも」の研修、イベント活動、広報活動など、可能な形でご参加ください。

会員・寄付	正会員 / 入会金 5,000円 年会費 5,000円 賛助会員 / 個人1口 3,000円 (年間) 法人1口 10,000円 (年間)
	銀行名 / きのくに信用金庫 本店営業部 口座番号 / 2629421 口座名義人 / NPO法人子どもセンターるーも
振込先	銀行名 / ゆうちょ銀行 口座番号 / 14730-16476891 口座名義人 / 特定非営利活動法人子どもセンターるーも (トクビ)コドモセンターるーも

事務局 特定非営利活動法人「子どもセンターるーも」  
〒640-8276 和歌山市作事丁38番地

お問い合わせ先 **073-425-6060**  
受付時間 10時～17時まで

Facebook「子どもセンターるーも」 子どもセンターるーもの情報、活動などを配信しています!

## 感謝を込めて ～子どもセンター「るーも」10周年～

NPO法人子どもセンターるーもは、2013年(平成25年)2月28日設立されました。同年10月1日、女子専用の子どものシェルターるーもを開設し最初の子どもが入所しました。今年は、法人設立そしてシェルター開所10周年を迎えます。

今年1月10日までに入所した子どもは延べ111人、その多くは中高生ですが、中には小学生も、20歳以上の方もいました。多くは30日～60日程度の入所ですが、1日だけということもあれば、逆に約半年入所していたケースもあります。利用者の半数弱は退所後自宅に戻りますが、親族や里親さん宅、児童養護施設、自立援助ホームなどに行く子どもたちも少なくありません。

自分を守ってくれるはずの家庭で安心、安全な暮らしをすることができず、心も体も傷ついた子どもたちにスタッフさんが寄り添い、共に生活します。温かい家庭料理や手作りのおやつを食べ、心身ともにひと時の休息をとって、安心・安全な環境の下で自分の意見・気持ちをスタッフさんと子ども担当弁護士に聴いてもらう。シェルターに居る間、少しでも大人の愛情を感じて欲しいと思っています。

るーもは、会員の方々、折に触れ様々な形でご寄付下さっているの方々をはじめ多くの皆様方のご支援、ご協力により今まで運営を続けてくることができました。

何よりこの10年間、一度も休止・閉鎖することなく子どもの受け入れを続けることができたのは、日々子どもと生活を共にして下さっている歴代のスタッフ、そしてボランティアの皆様方のおかげです。

るーもに関わって下さったすべての皆さまに、心から感謝申し上げます。

さて、児童虐待通告件数は和歌山県でも全国でも増え続けています。2020年4月1日から児童虐待防止法で保護者の体罰が禁止され、昨年12月には、民法の中に「親権を行う者は、監護及び教育をするに当たっては、子の人格を尊重するとともに、・・・体罰その他の子の心身の健全な発達に有害な影響を及ぼす言動をしてはならない」と定められました。

家庭に限らず、子どもに関わる全ての場所・場面で子どもの人格・人権を尊重する、まず子どもの意見を聴き、最善の利益は何かを一緒に考えて行動することが必要です。るーもはこの基本を忘れることなく、子どもの人権擁護活動に取り組んで参りたいと考えています。

子どもたちのために、皆様のお力をお貸しくださるようお願い申し上げます。

## 🍓 和歌山にる一もがあってよかった!!

「和歌山にも子どもシェルターが必要だ!」あの熱い想いを共有した日から早くも10年を迎えました。当時の我々に怖いものではなく、ひたすら前向きな気持ちでる一もの設立に挑んだことを鮮明に覚えています。今では、児童相談所だけでなく、医療・福祉・教育に関係する機関がる一もを必要としてくれ、時にはトリプルブッキングがなされることもあります。どうしてる一もがここまで必要とされてきたのか、この10年を振り返って考えてみたいと思います。

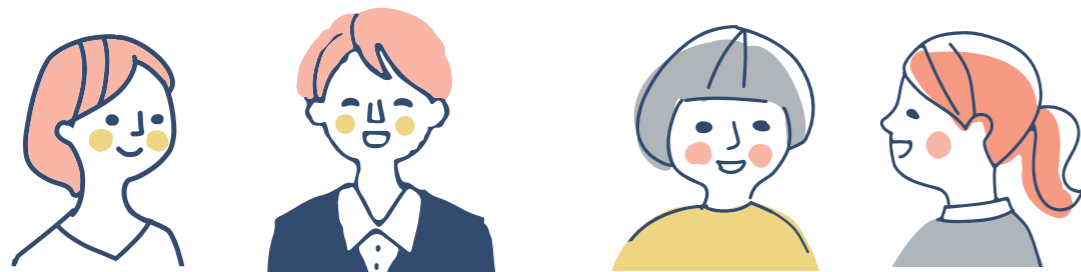
第1に、る一もには、幼少期から虐待を受け、大人に対する根深い不信感を持った子どもたちがたくさん来ます。そのような子どもたちは、る一もで十分に甘えられる経験を積み重ねて、幼児期に退行していきます。必要なところに遡って、人生初期の欠けていた経験を埋めていきます。短期集中的に愛情をシャワーのように浴びせることのできる、る一もだからこそ、子どもの心に栄養を補給することができます。

第2に、目に見える結果を追い求めるのではなく、「子どもの最善の利益を実現するため、子どもの選択を尊重しながら、子どもと一緒に歩いて行く」という想いのもと、目の前の子どもをしっかりと見つめて子どもに伴走するのも、る一もの特徴です。その時々心の变化に寄り添い、意思決定をサポートすることは容易ではなく、伴走した結果うまくいかないこともあるかもしれません。むしろ、ほとんどの場合、上手くいかないように見えるかもしれませんが、子どもの心には「大人を信頼してもいいかもしれない」という感覚が芽生え始めていると信じています。大人を少しでも信頼し、頼ってもらうためには、このような成功しているかどうか将来に分からない、地道なプロセスをこなしていかなければいけません。

この2つの特徴を言葉で表現するのは簡単ですが、実際の支援の場面では膨大な時間と労力を必要とします。これまで長年にわたり大人から裏切られ続けてきた子どもたちの心を少しずつ溶かすために、る一もが心掛けてきたことです。

る一もがこの10年で救ってきた子どもたちは100名を超えています。ある子どもは、「和歌山にる一もがあってよかった。生きていいと思えた。」と語ってくれました。る一もがあることで救われる子どもがいます。次の10年も一人でも多くの子どもがる一もに来て、心の栄養を満たして元気になってくれることを願っています。

和歌山県子ども・女性・障害者相談センター 土居聡



## 🍓 アフターフォロー「わこ」

月1回、る一もを退所した子どもが、スタッフと唯一会える場所が「わこ」です。新型コロナウイルスの影響で一時期ストップしていましたが、令和3年秋から再開、その後延べ9名の子どもが利用してくれました。

「わこ」のドアがカランカランと鳴り、笑顔で手を振りながら入って来てくれる姿を見ると、懐かしさで胸がいっぱいになり、当時の事が一瞬で蘇ります。

お昼には近くのコンビニでお弁当やお菓子を買って一緒に食べます。近況など楽しそうに話してくれる場合が多いのですが、次第に顔色が曇り、ポツポツと今しんどく思っている事を打ち明けてくれる子もいます。他愛無いグチ程度なら心配いらないのですが、内容的に気になる時は、周囲で信用できる大人がいるのかどうか聞き、いない場合でも、この人はどうか?あの人は?と一緒に探し、必ずその人に相談してみるようアドバイスします。

る一もを卒業した子がみんな幸せになりますように…

スタッフ A

## 🍓 子どもの声 ～る一もに来てくれた子どもたちの声をご紹介します～

